

平成二十四年度

総合問題

(文学科 日本語日本文学専攻)

9:30
～
11:00

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、問題冊子、解答用紙に手を触れてはいけません。
- 2 この問題冊子は12ページで、解答用紙は2枚あります。
- 3 試験開始の合図があったら、まずページ数、枚数を確認し(足りない場合は、手を挙げて監督者に知らせること)、全部の解答用紙に受験番号を記入してください。
- 4 試験中に、印刷の不鮮明な箇所やページの脱落などに気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 5 解答は、解答用紙の所定の欄に記入してください。
- 6 この問題冊子にある余白のページは、下書きなどに利用してかまいません。
- 7 試験終了後、問題冊子と受験票は持ち帰ってください。

一

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

【省略】

【省略】

【省略】

（林 浩平『テキストの思考——日本近現代文学を読む』

注1 一聯四音格 …… ここでは、読みが平仮名四文字（四拍）であること。

注2 那珂太郎 …… 詩人。萩原朔太郎の研究でも知られる。

問一 部①〜⑤の片仮名は漢字に、漢字は平仮名に直しなさい。

問二 部ア「助詞・助動詞といった助辞（付属語）や感動詞を除いた言葉の群れ」に該当する品詞名をすべて答えなさい。

問三 部イ「慣用化されたオノマトペ」に該当する語であなたが日ごろよく使うものを一つ挙げ、それを使って短文を作りなさい（主語を明示すること）。

問四 部ウ「漢語の音韻にもオノマトペ的性格を聴き取り言葉の音楽を感受する超高感度の受信装置を内在させた耳の持ち主であった」を言い換えている表現を、文中から三十字以内で抜き出しなさい。

問五 部エ「興味深い表現」とは、(1)具体的にはどのような表現か、また、(2)筆者はそれを朔太郎のどのような表現意図によるものと考えているか、それぞれ簡潔に説明しなさい。

問六 部a「詩の言語における音韻的側面や音楽的要素の開発と深化」の例として筆者が指摘しているもの二つを、文中から抜き出しなさい。

問七 部b「宮沢賢治」が著した童話作品の代表的な作品名を一つ答えなさい。

問八 部aが詩について音韻的側面と音楽的側面を話題にしているように、次の漢文も古い時代の歌についてその音韻的側面と音楽的側面を述べています。これを読んで、(1)〜(4)の問いに答えなさい。

樂之為器八、所以備六律五音者、有其声而已。

所貴乎人声者、有其文辞焉。音声之伝、工失其肄習、則易以亡絶。歌之有辞、則意義之通、可以

兼音声而得之。

（虞集『雍虞先生道園類藁』より。）

注 為器人 …… 楽器の素材が木や石など八種類あることを指す。

六律五音 …… 六律は現在の音楽用語では調性、五音は音階のこと。調性はハ長調

などのことで、音階はドレミのようなもの。

工 …… 楽工の略。楽工は楽団の団員のこと。

肄習 …… 習熟すること。

歌之有辞 …… ここで「辞」は歌詞のこと。

(1) 〓部「而已」「則」の送り仮名を含めた読みをそれぞれ記しなさい（現代仮名遣いで
もよい）。

(2) 〓部^cは「人声に貴ぶ所は、其の文辞有るなり」と書き下します。これに従って、解
答用紙の原文に返り点を付けなさい（送り仮名は不要）。

(3) 〓部^dを漢字かな交じりの書き下し文にしなさい（現代仮名遣いでもよい）。

(4) この漢文の内容をわかりやすく要約しなさい。このとき・印で示した「声（〓音声）」「人
声」「文辞」「辞」の意味をはっきり区別したうえで、すべて用いること。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

【省略】

【省略】

【省略】

（五味文彦『徒然草』の歴史学』一九九七年、朝日新聞社
朝日選書、9～13ページより作成。小見出しは省略した。）

注 『元亨釈書』……鎌倉時代、元亨二年成立の漢文による日本仏教通史。書名はその
成立した年号に由来する。

問一 〓部①～⑤の漢字の読みを平仮名で書きなさい。

問二 ……部「とぞ」、「となむ」などの伝聞の語法を末尾に付け用いているのが普通である」とあるが、そのように伝聞の語法を末尾につけた場合、――部 **a** はどのような意味になるか、伝聞の語法をつけた形で現代語訳しなさい。

問三 〓部 **b** と **d** を助動詞の意味、用法に気をつけて現代語訳しなさい。

問四 〓部 **a** 「そうしたこと」とはどういうことか、本文の内容に即して八十字以内で説明しなさい。

問五 〓部 **i** のような態度をなんと言いますか、本文中から五字以内で抜き出しなさい。

問六 〓部 **u** 「兼好の記憶に即して分節化し把握すること」とはどういうことか、その一例としてあげられている部分を七十字以内で抜き出し、始めと終わりのそれぞれ五字ずつを

書きなさい（句読点は含まない）。

問七 筆者は~~~~部で、「歴史的に『徒然草』を兼好に即して読む」ためには、「記憶を通じて考えてゆくことが有効」であると述べているが、その理由を六十字以内で説明しなさい。

問八 藤原道長は、平安時代に摂関政治の絶頂期をもたらした人物であるが、その息子の頼通よりみちの死後、摂関政治は衰退を迎えた。それに次いだ、天皇の父親による政治体制をなんと呼ぶか、漢字二字で答えなさい。

